

ReAL

2014.5 Vol.22

NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS



八重歯との別れに揺れた乙女心

●文

女優

星由里子

突然の一本の電話でした。「由里ちゃん、大竹です」「えっ、大竹先生?…」
「そう、生きていますよ、久しぶり」。
それは、このエッセイのお話をいただいたときのことです。本当に久しぶりに聞く大竹省二先生のお声に、私は懐かしい思いが吹き出し、胸が熱くなって言葉が出てきませんでした。

思えば私が14才のときでした。宝塚歌劇団東京公演で「ブロードウェイ・シンデレラ」が上演され、それに因んで募集された「ミス・シンデレラ娘」に選ばれたことで、当時映画プロデューサーだった藤本真澄さんからお誘いをいただき、翌年のお正月映画「すずかけの散歩道」で、主演の司葉子さんの姪っ子の役で映画デビューを果たしました。それからは巨匠稲垣浩監督の「大阪城物語」で千姫役に抜擢され、山田五十鈴さん演じる淀

殿とご一緒させていただきました。成瀬巳喜男監督作品「妻として、女として」では、高峰秀子さんの娘を演じました。アツと言う間にときが過ぎて16才。やはり新人だった浜美枝さんと田村奈巳さん、そして私の三人で「東宝スリーペット」として売り出すことになりました。そのご挨拶回りで、東宝撮影所宣伝部のマコちゃんに連れられて大竹先生のお宅へ伺いました。このときが先生との最初の出会いでした。

当時、大竹先生がお住まいだった赤坂乃木坂のアパートには、芸能人など有名な人や文化人が多く住んでおられました。先生宅へはしょっちゅう遊びに行っていました。お宅のサロンには、いつも綺麗なモデルさんや若いカメラマン、雑誌編集者の方たちが集まっていられて賑やかでした。私たちスリーペットの三人は、

お弟子さんが用意してくれた鍋料理をいただき、あるときは外へ食事に連れて行ってもらって、ピザやスパゲッティなど若い三人娘には珍しい料理をご馳走になり、嬉しくて仕方ありませんでした。楽しかった三人娘時代が、あゝ今でも懐かしく思い出されます。

その頃、大竹先生に写真を撮っていただいたという記憶はありませんが、あるとき「由里ちゃん、本当に女優さん続けてゆくの?」と、先生に聞かれました。

ちようど私が日本映画製作者協会から1960年度新人賞を受賞したときでした。まだ高校生だった私は、学校と仕事を両立させるのが精一杯で、将来のことまでは考えていませんでした。ただ、東宝の女優として新人賞をいただいたことで女優としての自覚が芽生え、進む道標が少し見えたように思いました。



「星由里子 1964」 Photo：大竹省二



漁支度

小野寺泰雄（会員）

私がモノクロフィルム現像と銀塩プリントを始めたのは、昭和40年頃でした。当時は、トライXの100フィート缶からパトローネに巻いて使用するのが流行していて、現像液はD76、微粒子仕上げは1対1希釈液現像、粗粒子仕上げなら古くなった現像液の高温現像と、試行錯誤しながら楽しんでいました。引伸ばしプリント作業は夜間のお座敷暗室で、準備と後片付けが大変でした。今は懐かしい思い出です。

そして現在、デジタル化によって写真の楽しみ方も大きく変わりました。パソコンで日中にプリントができるなど、そのメリットは計り知れません。

掲載作品は、カラーで撮影したものです。人物の救命胴衣が鮮やかな黄色、上着が赤色系、ゴムガツパが明るい青、年配女性のスカーフは緑など、画面に色彩があふれて煩雑感が拭えませんでした。そこでモノクロに変換し、素朴感のある描写にするためトライXの粒子仕上げをイメージしてプリントしました。



ほし・ゆりこ

女優。本名・清水由里子。1943年東京生まれ。1958年、東宝が宝塚歌劇団東京公演に因んで募集した「ミス・シンデレラ娘」に選ばれ東宝に入る。翌年「すずかけの散歩道」で女優デビュー。文芸作品からアクション映画まで、数多くの映画に出演。1961年の「大学の若大将」でヒロイン・澄子役になり、その後1968年「リオの若大将」までのシリーズ11作品に出演した。

1960年製作者協会新人賞、「わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物語」で1996年日本アカデミー賞助演女優賞を受賞。舞台「佐渡島他吉の生涯」で第28回菊田一夫演劇賞受賞。テレビドラマでは「ぬかるみの女」、NHK 朝の連続ドラマ「あぐり」、テレビ朝日「科捜研の女」、NHK 大河ドラマ「篤姫」などに出演。女優業とともに「2時のワイドショー」司会など活動の幅を広げる。2014年9月に東京・明治座、11月に大阪・新歌舞伎座、2015年1月に福岡・博多座で上演される「北島三郎最終公演」に出演、9年間にわたり5度目の相手役を務める。

そんな折に、大竹先生から「女優を続けるのなら、その可愛い八重歯を直さない。大人になってからでは遅い、今でしょ」と言われました。

ミス・シンデレラ娘に選ばれたとき、審査委員長だった菊田一夫先生から「八重歯のシンデレラ娘の誕生だ」と言っていただき、それからは八重歯が私のキャッチフレーズにもなっていたのですが、私は自分の八重歯があまり好きではありませんでした。皆さん可愛いとおっしゃってくださるけれど、歯並びは私の秘かな悩みであり、コンプレックスでした。それを大竹先生は写真家の目で見抜いておられたのでしょうか。その後、母を説得して、藤本プロデューサー紹介の歯科医院で矯正していただくことが決まりました。このときが、私なりの女優星由里子の誕生だったと思っています。

綺麗に矯正された歯並びの私を見て、大竹先生と藤本プロデューサーは満足されていました。いっぽうで巨匠写真家の秋山庄太郎先生からは「他の人と同じになつてしまうのは、僕は反対だったよ」と言われました。このときは悲しかったのですが、この言葉で私は、他の人とは違う女優になろうと乙女心に決心しました。八重歯と別れて17才になった私は、生まれ変わったような気持で仕事に取り組みました。加山雄三さんと一緒に一緒に映画「大学の若大将」は大ヒットし、シリーズ化されて若大将と澄ちゃんコンビは11作も続きました。その後も「大阪城物語」以来可愛がっていただいた稲垣浩監督の作品に出演、成瀬巳喜男監督の「女の歴史」では再び高峰秀子さんと一緒に一緒にさせていただくなど150本もの映画に出演することができました。

映画女優からテレビドラマへ、そして舞台出演と、皆さまのご指導のおかげで仕事の幅を広げることができました。今まで、それはそれは長い時間が流れてしまいましたが、その間、大竹先生にお会いしたいと思ひながらお訪ねする機会もなく、ご無沙汰をしてしまいました。

でも、恩人大竹省二先生のことを忘れたことはございません。今、私がこうして女優を続けていられるのは、あのとき大竹先生から八重歯のアドバイスをいただいたお陰とっております。

今回は、大竹先生に撮っていただいた私の大好きな思い出の写真も載せていただきました。

いつの日か、古稀を迎えたかつてのスリーペット三人娘が揃って先生のお宅へお邪魔させていただきたい、という願いを叶えさせてください。大竹先生！





ショーウィンドー

角尾抽臣子（会員）

写真は出会いだと思います。

掲載作品は、ショーウィンドーの大胆なポスターに魅せられ、ここでのドラマチックなシーンをイメージしながらマツチヨな被写体を待つものの、残念なことに道行く人は皆素通り。諦めて他の被写体を撮影しての帰り道、見るとポスターの側にサングラスの男性が立っていました。これも出会いのひとつと思いシャッターを押しました。

デジタルカメラになり、撮影してすぐその場で画像を見ることが削除することもできませんが、私はほとんど見ませんし削除もしません。後でシャッターを押した写真すべてをチェックします。それは反省材料にすること、もう一つの理由は、繰り返し見ることのできる作品を見いだすことができるかも・・・と、出会いを大切にしたいから。これからもたくさんのお会いを楽しみにしています。

Happy Wedding

清水耕史（会友）

「結婚は人生の墓場」などという言葉もありますが、それでも結婚する男女の周りは、やわらかなパステルカラーの幸せな空気に包まれて、いいものだなあと 생각합니다。ましてそれが春となると風の暖かさも相まって、こちらの心の中まで弾んできそうです。

昨年の春に、女性の友人が結婚しました。英語が堪能で、ここ数年ずいぶん頻繁にカナダへ行くと思っていましたら、案の定、夫君はあちらのハンサム。それから1年が経った先月、日本での披露宴が行われました。掲載作品は、その時のひとコマです。

外国の人たちの披露パーティーは、やはりひと味違って、新郎新婦のダンスタイムがありました。日本人同士だと照れてしまっ、なかなか様にならないところだけ、さすがに太平洋を渡って愛を交わせたカップル、堂々たる華麗なダンスを披露しました。その幸せそうに微笑み抱擁する姿には、なかなか心ひかれるものがありました。



私の撮影地は家から3〜4時間ほどの場所が多く、雨上がり、曇り、霧、朝夕の光など、さまざまな気象条件で山間地を撮影しています。

写真は主役と脇役、色彩、ピントも大事ですが、もっとも重要なのが構図とバランスで、撮影時に細心の注意が必要です。撮影前日にある程度のイメージを描き、現地では状況や雰囲気などをあらゆる角度から検討し、また、ある時は自分の感性で見つけた感動を表現します。そのワンカットが作品となります。

掲載作品は、檜枝岐村から御池入口で紅葉の真盛りを撮り、奥只見湖方面に山を下った所で出合った光景です。光に輝くススキの穂が運転する私の目に飛び込んで来ました。奥只見湖に流れこむ川と山の斜面に挟まれた道路は細くS字カーブになっていて交通量も多く、三脚を立てる場所に苦労しました。

逆光線にススキの穂が銀色に輝き、絶好のタイミングとポジションで撮影。二度とない撮影チャンスでした。

秋光

坂野美好（会員）



朝の舞い

向井俊久（会員）

タンチョウは世界で15種類いる鶴の仲間の1種類。彼らの寝ぐらは川の浅瀬です。冬の明け方に冷え込んだりすると川霧が発生し、川辺には樹氷が出現して幻想的な世界となります。気温マイナス20度以下の晴天で、太陽の顔が見えることが最低の条件です。タンチョウたちは鳴き合ったり、舞い踊ったりして、仲間との絆を確かめているようです。

ここは朝の撮影のメッカともいべき鶴居村の音羽橋で、1〜2月の最盛期には2百台ぐらいカメラが並びます。

かつてタンチョウは絶滅したかのように思われていましたが、大正13年に10数羽の生存が確認されて以来、平成17年には1千羽を超え、まさに千羽鶴が実現したのです。

しかし、喜ばない課題として、鳥インフルエンザの脅威と農耕地でのタンチョウの被害などがあります。かつて人工給餌によってタンチョウを救ったように、英知を集めて共存の実現を図らねばならないと思っています。

ゲット

南村初江（会員）

10月の例祭「大津祭り」は、華やかな曳山とお囃子とが織りなす華麗な祭りです。からくりは日本最古のものと云われ13基の曳山で町中が祭り気分一色になります。宵宮は曳山それぞれが提灯で飾られ、遅くまで見物客で賑わいます。本祭は13基の曳山が市内を巡行します。

掲載作品は、構図を膨らませながら歩いて歩いて動き回って、やっとイメージした場所を見つけ、そこからは動かず撮影しました。大勢のカメラマンで混雑していましたが、運良く知り合いの方に場所を譲っていただき撮影することができた感謝の一枚です。

曳山から撒かれる「ちまき」をゲットしようといわれ先に手をのばし、手中にするのは自分だと皆の気持ちが「ちまき」に集中した瞬間を狙って連写。タイミングよく両手を伸ばした女性の顔の真ん中に「ちまき」が入った一瞬をとらえることができました。私にとって素晴らしい出会いでした。

夏の子

武鹿千代（会友）

「木曽路はすべて山の中である」

島崎藤村『夜明け前』の有名な冒頭の一文です。現在の木曽路は、昔とはずいぶん違った様相になってきましたが、名古屋近郊に住む私にとっては、まだまだ日本の原風景が残る魅力ある場所です。

また、御嶽山の裾野に広がる木曽町開田高原の生活感のある自然風景にも魅かれ、10年位前から毎月のように木曽方面へ撮影に出かけています。仲良くなった地元の方々の心の温かさに触れ、訪れる度になぜかふる里に帰ってきたような懐かしさを感じます。

掲載作品は、お盆のころに妻籠宿で撮影した一枚です。打ち水で濡れた路面、夕暮れがせまる静かな佇まいの町並み。その情景の中で、提灯を持った浴衣姿の女の子が動きを添えてくれました。古き良き時代の「日本の夏」を感じさせるひとコマになりました。

今後も人や風景との出会いを大切にしながら、木曽路を撮り続けたいと思っています。
（左ページの作品）



病と医療の知識

健康で明るく人生を楽しむために①

医学博士 吉田鉄也 (会友・兵庫支部)

医師の選び方 上手なかかり方

● 医師と患者の協力関係

近年の医療は非常に進歩して専門化しています。そのため、医師によって得意とする分野と、そうでない場合もありますが、医師へのかかり方に上手下手はないと考えている方は少なくないでしょう。けれども医師に上手にかかるとどうかで、その結果にかなりの差異があることも事実です。最近では医師を選ぶのも寿命のうち、という言葉が冗談まじりに



聞こえてきます。

医師は治す人、患者は治してもらう人という考え方は大きな間違いで、病気の治療は医師と患者の協力関係がうまく行われてこそ、成果が上げられるのです。例えば、虫垂炎（盲腸炎）にかかつて外科で摘出手術をおこなうと、いかにも医師が治したようですが、じつは患者も医師の指示を忠実に守って治す努力をしています。また、内科で服薬とか注射によつて病気を治すにしても、患者は医師の指示どおりに食事に注意し、入浴を避けたり、ときには禁煙を強いられたりと、いろいろと養生をさせられ、それによつて病気が治るのです。

病氣に対して医師と患者の役割は違いますが、お互いが協力して責任を果たし合うことがとても大切です。

ところで最近、医師を修理屋扱いしたり、反対に医師はどんな病気ででも治せるものと思ひ込み、患者としての責任を考慮しない人が増えてきています。こうした患者は治療がうまくゆかないと医師を訴え、いわゆる医事紛争増加の原因となっています。医師が十分に責任を果たす反面、患者も自分の責任を果たすように心がけることが必要です。

● 早期受診のすすめ

早期受診の重要性についてもつと認識
しましう。病気が重くなつてから医師

にかかると、治る病気でも治らないし、仮に治っても長い治療期間を要することにもなります。ガン是不治の病だと恐れられていますが、早期に発見し、早期に治療することで、治癒することは今や常識です。病気ではないとか、しばらく様子を見ようとか、自己判断で受診を遅らせると、とんでもないことになりかねません。また、すぐに症状が現れず体内に潜んでいる場合もあります。これを潜在疾病と言いますが、最近は医学の進歩によつて、早期発見の優れた方法がたくさん開発されています。今の時代に受診が遅れて命を失うことがあつてはなりません。大事なのは早期発見であり、そのためには早期受診が必要ですよ。

● かかりつけの医師を定める

あなたは気軽に相談できる主治医（家庭医）がいますか。もつとも感心できないのは、同じ病気で転々と医師をかえること。いわゆる「ハシゴ受診」です。病気によっては、初診ですぐに診断がつかないことも少なくありません。こんな場合には、投薬しながら検査の結果がでるまでしばらく経過観察をする必要があります。診断がすぐにはつきりしないからといって他の医師にかかると、また同様の検査と経過観察が行われ、結局、治るのが遅れるだけです。医師を信頼して任せる、その医師も責任を痛感して一生

アフタヌーン

佐野和史
(会友)

ベネチアの仮面カーニバルは、世界三大カーニバルの一つに数えられ、毎年2月末に開催されます。サンマルコ広場を中心に、中世の雰囲気イメーじした華麗なコスチュームや美しいマスクを身に纏った人々であふれ、カーニバル期間中は街中が仮面舞踏会となります。

掲載作品は、サンマルコ広場近くの港から水上バスで40分ほどの距離にあるムラーノ島で撮影しました。13世紀からの伝統と技術を継承するベネチアングラスの製造工場が立ち並ぶ一角を背景に、白い仮面と黒いマントの人物。歴史の重みを感じさせる建物や路面の石畳、好天の青い空、建物の影、赤いレンガ壁と無数の鳩による舞台セットが独特な雰囲気を出し、印象的な作品になりました。

今後も素晴らしい場面に出合えることを願ひ、感動の瞬間を求めて作品づくりに取り組みたいです。

懸命に治療にあたりますので、結果的に早く治ることになります。稀に後から診察した医師が正しい診断をくだすことがあります。それは症状が進んでいるから診断できたとも考えられます。つまり後出しジャンケンと同じです。

さて、いつも同じ医師にかかっている
と、その患者さんの体質あるいは既往症
などを承知しているので、治療の上で非
常に有利です。このような意味からも信
頼できる医師を主治医として定め、その
医師に家族がかかる「家庭医」になっ
てもらうことが、いろいろな意味で得策でし
ょう。もちろん主治医の専門以外の病気
に罹ることもあります。そのときは主治
医からそれぞれの専門医に紹介をうける
こともできますし、また困難な治療の場
合には設備の整った病院に紹介してくれ
るはずです。要は医師との間に血の通っ
た人間関係をつくっておくことです。

最近、セカンドオピニオンのことをよく耳にします。医師の診断や治療法が適切かどうか、患者が別の医師の「第2の意見」を求めることです。難しい病気で医師にすすめられた手術をするか迷っているとき、あるいは薬の選択など治療方法を迷っているなど、ほかの医師の診断や意見を聞きたいことがあります。こんなときも主治医に相談して、アドバイスをもらいます。こうした関係づくりが、医師との上手なつきあい方です。



REAL賞「語らい」小田祐子(兵庫支部員)



REAL賞「胚」國吉倅明(沖縄支部員)



REAL賞「ポイント」笠原 明(埼玉支部員)



REAL賞「出番前」松下紀和(兵庫支部員)



REAL賞「冬深く」田村 勲(新潟支部員)



REAL賞「出番前」山本璋子(滋賀支部員)



REAL賞「雪日」高橋 逸(青森支部員)



REAL賞「嫁ぐ日」藤井雅子(兵庫支部員)

第62回展の一次審査が終了し 入選内定作品が決まる



第62回展一般公募作品「組写真部門」の一次審査

○審査委員長＝大竹省二創立会員 ○審査員＝山本博之特別会員、朝日正特別会員、徳永善彦会員、森井禎紹会員、川本征紀会員、蜂須賀秀紀会員、角尾栄治会員、近藤誠宏会員、土田貴夫会員、柳原香会員、徳永美奈子会員、大山莊一会員、坂部子一会員、村上則子会員、藤森順治会員、丹羽正仁会員、鈴木洋一会員、佐藤ちえ子会員
○進行管理＝片岡順一会員、天内紀元会員 ○立会人＝今井寿雄会員、安久雅人会員

第62回二科会写真部展の一般公募作品は「単写真部門」と「組写真部門」の2部門で募集し、3月1日(土)～7日(金)に委託搬入(郵便または宅配便)のみで応募の受け付けを行いました。

今年度の応募状況は、「単写真部門」が2175名・10552点、「組写真部門」が166名・493組1479点で、単写真と組写真の混合応募が590名・5555点でした。応募総数では、昨年に比べ応募者で203名減少、応募作品で298点の減少になりました。昨年までは毎年応募点数が増加し、過去最高記録を更新してきましたが、今年は残念ながら応募人数・点数とも減少という結果になりました。

＊ ＊ ＊

第62回展一般公募作品の一次審査は、4月10日(木)～13日(日)の4日間、東京・国立新美術館の審査室で行いました。審査委員長は大竹省二創立会員、審査員は特別会員2名・会員16名が務めました。

初日の10日(木)は午前11時から審査を開始。まず「組写真部門」から始まり、166名の応募作品を個人別に審査して入選候補作品をピックアップ、1名1作品に絞りました。入選候補にならなかった作品は、この時点で落選となります。

午後は単・組写真混合応募590名の作品を個人別に審査し、単写真あるいは組写真のどちらかを選出。作品は入選候

補作品としてそれぞれ振り分けます。初日の審査は午後6時に終了しました。

2日目の11日(金)は午前10時に審査開始。前日に引き続き単・組写真混合応募の審査を行いました。次に「組写真部門」の入選候補作品を風景・スナップ・花・動物など12ジャンルに分類してジャンル別に審査。さらに類似作品のチェックなどを行い、厳正かつ慎重に審査を重ねた結果、「組写真部門」入選内定作品として219組が決まりました。

続いて「単写真部門」応募作品の選考に移り、2175名の作品を個人別に審査。審査員の意見が分かれる場合は挙手による多数決で選ぶなどして、審査員全員が集中して応募作品と対峙し、緊張感のある審査会場で順調に審査は進行しました。午後6時に2日目の審査が終了。

3日目の12日(土)は午前10時開始。前日に引き続き単写真を審査し、午後3時に全応募作品の審査が終わりました。

4日目の13日(日)は午前10時に審査開始。前日までの審査で残った作品を18ジャンルに分類し、ジャンル別に審査を行いました。そして単写真の入選内定作品755点が決まりました。

審査終了時の入選内定者は、単写真・組写真合計で974名となりました。4日間にわたる一次審査が終了。審査員の方々、ご協力いただいた皆さん大変お疲れ様でした。(事務局長・片岡順一)

NEWS FILE

■支部展情報

●第52回二科茨城支部展

会期…5月16日(金)～21日(水)
会場…茨城県立県民文化センター
4部門合同展終了後、県内4会場で写真部のみ巡回展を開催

会期…5月25日(日)～6月1日(日)
会場…鹿島セントラルホテル セントラルモール・ステージ

会期…6月3日(火)～8日(日)
会場…日立市角記念市民ギャラリー

会期…6月12日(木)～15日(日)
会場…下妻市ふるさと博物館

会期…6月17日(火)～22日(日)
会場…牛久市中央生涯学習センター 展示ホール

会期…6月3日(火)～8日(日)
会場…静岡県立美術館 県民ギャラリー

会期…6月3日(火)～8日(日)
会場…静岡県立美術館 県民ギャラリー

会期…6月24日(火)～29日(日)
会場…愛媛県美術館 南館県民ギャラリー

会期…7月8日(火)～13日(日)
会場…新居浜市立郷土美術館

会期…6月6日(金)～12日(木)
会場…山梨県立美術館 県民ギャラリーC

会期…6月6日(金)～10日(火)
会場…ギャラリー花畑

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

会期…6月25日(水)～29日(日)
会場…栃木県総合文化センター 第2ギャラリー

リー

●第21回宮城支部展

会期…7月4日(金)～9日(水)
会場…せんだいメディアテーク5階

●香川支部写真展

会期…7月8日(火)～13日(日)
会場…高松市美術館 市民ギャラリー

●第23回埼玉支部展

会期…7月10日(木)～15日(火)
会場…埼玉会館第1・第2展示室

会期…7月29日(火)～8月3日(日)
会場…深谷市民文化会館 展示室

会期…8月7日(木)～10日(日)
会場…所沢市民文化センター ミューズ

●鳥取支部展

会期…8月8日(金)～12日(火)
会場…米子市美術館 第1展示室

●第15回秋田支部展

会期…8月15日(金)～18日(月)
会場…秋田総合生活文化会館・美術館 アトリオン2階第一展示室A

■支部公募展作品募集

●第23回埼玉支部展

◇応募資格…年齢16歳以上、埼玉県在住者および在勤者(埼玉支部員は応募不可)、プロ・アマは問わない

◇テーマ…自由(カラー・モノクロの単写真に限る)、未発表・発表予定のないもの

◇サイズ…銀塩・デジタルともに四ツ切プリント(周囲にフチを付ける)

◇応募受付…5月20日(火)～31日(土) 必着

◇応募方法…応募には所定の応募票・応募用紙が必要(問合せ先…福島県埼玉支部長

0480・58・5145)

◇応募料…1点につき2千円(郵便振替)、応募点数に制限なし

◇審査…6月14日(土)10時より埼玉会館会議室で審査(応募者は見学可)

◇賞…埼玉支部大賞、大竹省二賞、長野県知事賞、長野県議会賞、長野県教育委員会賞ほか

◇第39回北海道支部写真展

◇応募資格…北海道在住者、プロ・アマは問わない

◇テーマ…自由(カラー・モノクロの単写真に限る)、未発表・発表予定のないもの

◇サイズ…四ツ切、デジタルはA4サイズ可(周囲に4ミリ～3センチ以内のフチを付ける、台紙不可)

◇応募受付…7月1日(火)～7日(月) 必着

◇応募方法…応募には所定の応募目録が必要(問合せ先…斉藤憲司北海道支部長

0166・61・0704)

◇応募料…5千5百円、支部員3千5百円(返却料込み、郵便振替)、一般・支部員とも応募点数に制限なし

◇賞…北海道支部大賞ほか

◇第36回広島支部公募展

◇サイズ…A4サイズまたは四ツ切プリント
◇応募受付…7月28日(月)～8月4日(月)
◇応募方法…応募には所定の応募票が必要(問合せ先…瀬野秀明広島支部長082・822・5254)
◇応募料…1点につき1千円(支部員は無料)、応募点数に制限なし
◇賞…広島県知事賞・広島支部大賞、優秀賞ほか

■特別会員・会員・会友・支部員情報

●佐々木修写真展「I写心・響心」

山形支部・佐々木修会友の個展。
会期…5月16日(金)～25日(日)

会場…山形県芸文美術館 ギャラリー1

●森誠子写真展

「PHOTO たび SKETCH」
神奈川支部・森誠子支部員の個展。
会期…5月23日(金)～29日(木)

会場…富士フォトギャラリー 新宿

●藤森順治写真展「諏訪湖憧憬」

長野支部・藤森順治会員の個展。
会期…6月4日(水)～16日(月)

会場…リコイメージングスクエア新宿

●奈良孝治会員遺作展

秋田支部・奈良孝治会員の遺作展。
会期…6月20日(金)～29日(日)

会場…能代エナジウムパーク

●大原京写真展「Hello HAWAII」

神奈川支部・大原京支部員の個展。
会期…6月26日(木)～7月2日(水)

会場…アイデムフォトギャラリー「シリウス」

●安成恒昭写真展

「第一次ミヤンマー(ビルマ)写真紀行」
山口支部・安成恒昭会友の個展。
会期…10月18日(土)～11月24日(月)

会場…ギャラリー写創蔵(しゃくら)

INFORMATION



■2014年度行事予定

- ◎第99回二科展(=第62回写真部展)
9月3日(水)～15日(月)／国立新美術館
- ◎2014年度夏期定時会員会友総会(出席者は
特別会員・会員・会友)
9月5日(金)／東京プリンスホテル
- ◎第62回二科会写真部展授賞式・懇親会(出席
者は来賓・特別会員・会員・会友・入賞者・入
選者および同伴者)
9月5日(金)／東京プリンスホテル

■『二科会写真部作品集』バックナン バーのご案内

当会では毎年、国立新美術館で展示した二科
会写真部展の全作品をオールカラーで収載し
た作品集を刊行しています。

巻末には入賞者の受賞感想、第1回展からの
入賞者と会員・会友推荐者一覧、会員・会友
出品目録、入選者名簿などを掲載。二科会写
真部の記録資料としても充実した内容になっ
ています。

購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請
求ください。

作品集バックナンバー価格及び在庫表

回数	回数	価格
1979年27回展	2009年 57回展	15,000円 (支部員13,000円)
1980年28回展		
1981年29回展		
1982年30回展		
1983年31回展	2010年 58回展	15,000円 (支部員13,000円)
1985年33回展		
1986年34回展	2011年 59回展	15,000円 (支部員13,000円)
1987年35回展		
1988年36回展	2012年 60回展	15,000円 (支部員13,000円)
1989年37回展		
2002年50回展	2012年 60年史	8,000円 (出品者6,000円)
2003年51回展		
2004年52回展		
2005年53回展		
2006年54回展	※20～26、32、38～49回展および61回展作品集は、完売。	
2007年55回展		
2008年56回展		

特別
価格
一律
3、
0
0
0
円

■表紙のことは

「おんなとバラ」大竹省二 創立会員

女とバラと言えばオペラ「カルメン」を連想する。舞台は 1820 年頃のスペ
イン・セビリヤ。カルメンが赤いバラをくわえてさっそうと登場する場面。
撮影は都内の撮影スタジオだが、物語性をもたせたセッティングと窓からの自
然光をイメージしたライティングで、ドラマチックな表現を演出してみた。

■第62回二科会写真部展「入賞・入選・出品作品」の 記念のポストカードを作ってみませんか

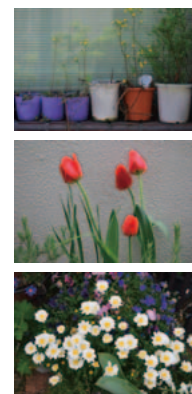
第62回展の特別会員・会員・会友出品作品および一般公募の入賞・入選作品を対
象にポストカードの製作を承ります。詳細なご案内と申込書は個人宛てに発送い
たします。ご希望の方はお申込みいただけますようお願いいたします。



「雨地帯の早春」二科太郎 第62回二科会写真部展入賞作品



「国島天神舞まつり」二科太郎(会員) 第62回二科会写真部展出品作品



「春の光」二科太郎

「春の光」二科太郎

※ポストカード
のレイアウトサ
ンプルです。
※写真はすべて
イメージです。

●お問合せ・お申込み先

一般社団法人二科会写真部
〒106-0031 東京都港区西麻布 1-4-20
ワルトハイム西麻布 601
TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034

■「支部員バッジ」を頒布します

二科会写真部では、会員・会友および支部員
それぞれにバッジを発行。支部員バッジのデ
ザインは黒地に銀の二葉で、各支部に入会
時、支部長が本部へ申請して購入、支部員に
頒布します。支部員バッジ
が必要な場合は、支部長を
通して本部事務局へお申し
込みください。



●頒布価格＝1個2,000円

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.22

2014年5月31日発行
発行所／一般社団法人二科会写真部
発行人／大竹省二
編集／一般社団法人二科会写真部
〒106-0031 東京都港区西麻布 1-4-20
ワルトハイム西麻布 601
TEL. 03-3470-8033 FAX. 03-3470-8034
<http://www.nika-shashin.or.jp>